

泣いた!笑った! in途上国

～貧しくともたくましく
生きる人たち～

私が協力隊員としてメキシコに赴任したのは今から約2年半前。首都のメキシコシティでさえ標高約2,300メートルの所にあり、慣れるまではいくら寝ても寝たり無く、少し歩いただけで疲れてしまう、ビール少々で酔っばらえてしまう、そんな状況で私のメキシコ生活が始まりました。

最初にJICA事務所で首都の治安状況についてたたき込まれたこともあり、当初やたらとビクついて町を歩いていた事は今思えば可笑しく感じられます。しかしメキシコ滞在2年間で危険な目に遭うことが無かったのは、最後まで気を抜かなかったおかげであると思います。

私の任地は首都からバスで7時間程の先住民民族色の濃い地域でした。「先住民民族色が濃い」とは地域住民は皆ほぼ先住民民族と言えるのですが、僅かながらもどこかでスペイン人の血が入っていると推測できる、という意味です。しかしプレペチャ(タラスコとも呼ばれる)という現地語が未だ残存しており、街道から少し奥に入った村ではその現地語が母語として使われています。

ところで一般的にメキシコを含む中進国や発展途上国では貧富の差が激しいと言われます。しかも先住民民族が居住するような地域では貧困の問題が根



メキシコのお姉さんと

強く横たわっていると私も想像していました。確かに一部のエリート層の生活水準とは雲泥の差があることは事実です。しかし、彼等を「貧しい」とか「貧困」とかいった言葉でひとくくりに定義してしまうのは少々強引であると思いました。餓死してしまう程の貧しさに苦しむ人はほとんどいません。職の無い者も親戚縁者に頼って食べていくことができます。逆に「貧しい」という言葉を政府から援助を引き出すために巧みに使い分ける彼等の姿にたくましさすら感じました。

メキシコ人の友人が言うように、家族何とか食べていけてたまにテキーラが飲める生活、それがあるだけで十分なのかな、と考えさせられる毎日でした。



ホームパーティーで

「中学生エッセイ コンテスト2000」 受賞者の発表

5回目を迎えたこのコンテストは、毎回応募作品が増加し、全国では15,812作品、北海道内でも444作品と昨年よりも10パーセント以上増えました。審査の結果はJICAのホームページで公表されていますが、この紙面をお借りして改めて北海道内の中学生の作品の受賞結果を発表させていただきます。

全国入選

齋藤 優佳さん

釧路市立武佐中学校2年

「私達の世代に国境はないー
初めてのホストファミリー」

加藤 歩さん

浜頓別町立下頓別中学校3年

「ひとりの人間として」

北海道国際センター(札幌) 所長賞

和田 裕美さん

札幌市立山鼻中学校1年

「輝ける島の現実」

渡部 沙織さん

札幌市立西岡北中学校1年

「私の小さな一歩」

北海道国際センター(帯広) 所長賞

阿部 宏子さん

北見市立南中学校3年

「助け合うということ」

青年海外協力協会会長賞

佐藤 雄司さん

札幌市立山鼻中学校3年

「ボランティアを
通しての友達」

学校賞

旭川市立啓北中学校

札幌市立山鼻中学校

新得町立新得中学校

浦河町立荻伏中学校

国際協力事業団(JICA) 北海道国際センター(札幌・帯広)

札幌/〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4番25号 TEL:011-866-8333

帯広/〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2 TEL:0155-35-1210